
学生情報システム

学生情報システム (SIS) プロファイルを設定するには、次の役職が必要です。

- 統括システム管理者

Almaは、学生情報システム (SIS) との間でユーザーをエクスポート/インポートできます。

ユーザーをインポートするには、SISはXMLファイルを含むzipファイルをすべてのユーザーとともに定義済みのS/FTPロケーションに配置する必要があります。Almaは、SIS統合プロファイルで定義されたパラメータに従って、ファイルを取得し、情報を解析し、ユーザー (外部タイプ) をアップロードします。

Note

- すべてのプライマリ識別子と追加の識別子は、同じユーザーを含め、ユーザーに対して一意である必要があります。
- インポートと同期のために、ユーザーデータをzipファイルに含める必要があります。
- 「ファイルを解析できませんでした」というエラーが発生した場合は、スキーマに従ってXMLファイルを圧縮してみてください。

ユーザーをSISにエクスポートしたい場合があります。たとえば、図書館への債務があるユーザーや特定のブロックを持っているユーザーなどです。これにより、SISは、これらのユーザーが図書館に対する未払いの債務を解消するまで、特定のアクティビティをブロックできます。

背景情報

Almaでのユーザー管理の詳細な概要については、<https://developers.exlibrisgroup.com/alma/integrations/user-management>を参照してください。Almaの実装を開始する前に、外部認証システムが稼働している必要があることに注意してください。

SISの統合の詳細については、<https://developers.exlibrisgroup.com/alma/integrations/user-management/sis>を参照してください。

ユーザー管理とSIS統合の概要については、[ユーザーレコードの作成と更新 \(5分6秒\)](#)を参照してください。

統合プロファイルの設定

学生情報システム (SIS) への統合プロファイルを設定するには：

1. 統合プロファイルリストページ (設定メニュー > 一般 > 外部システム > 統合プロファイル) で、統合プロファイルを追加を選択します。統合プロファイルウィザードの最初のページが表示されます。

ユーザー統合プロファイルウィザード-ページ1

2. ウィザードの最初のページで、次の情報を入力します。
 1. 定義するプロファイルのコードと名前を入力します。
 2. 統合タイプドロップダウンリストから、ユーザーを選択します。
 3. S/FTP接続タイプドロップダウンリストから、過去に定義したFTP接続の名前を選択します。
 4. 統合するSISのタイプを示します (Ex Librisの情報提供のため)。これは必須です。
 5. 任意で、設定しようとしている統合の説明を入力します。
 6. 次へを選択します。ウィザードの2ページ目が表示されます。

3. ウィザードの2ページ目で、次の情報を入力します。

ユーザー統合プロファイルのフィールド

セクション	フィールド	説明
	アクティブ	<p>ジョブがアクティブかどうか。ジョブがアクティブな場合、選択したスケジュールオプションに従ってジョブが実行されます。非アクティブの場合、実行されません。</p> <p>このジョブは、<integration profile name>を使用したユーザー IMPORTと呼ばれます。</p>
<p>インポート (ユーザーの最初のインポートに使用されます。一致するレコードが見つかった場合、レコードはインポートされません。これを1回、または1年に1回手動で実行します。その後、同期セクション/ジョブを使用します。)</p>	レコードタイプ	<p>Almaで作成するユーザーレコードのタイプ：コンタクト、パブリック、またはスタッフ。</p> <p>各SISプロファイルは、1つのタイプのユーザー (スタッフまたは公開) をロードします。別のユーザータイプを処理するには、別のSISプロファイルを定義する必要があります。教育機関の単一のSISに複数のタイプのユーザーがいる場合は、プロファイルのレコードタイプを公開として定義することをお勧めします。これは、すべてのユーザーが公開ユーザーとしてAlmaで作成されることを意味します。その後、ユーザー役職を使用して、ユーザーとスタッフを区別できます。</p> <p>レコードタイプの選択の詳細については、https://</p>

セクション	フィールド	説明
		developers.exlibrisgroup.com/alma/integrations/user-management/sis/synch を参照してください。
	入力ファイルパス	セキュアFTP接続の作成時に指定されたパスのサブディレクトリ（必須）。例えば、セキュアFTP接続設定時にサブディレクトリフィールドに Alma を入力し（このフィールドに値を指定することは必須であることに注意してください）、入力ファイルパスフィールドに SIS_import を入力した場合、SIS ファイルは Alma/SIS_import ディレクトリ（FTP ルートディレクトリ下）からインポートされます。
	ユーザー XSD 版	バージョン 1 または 2 を選択します。 2 を使用する必要があることに注意してください。これらのバージョンの詳細については、 https://developers.exlibrisgroup.com/alma/integrations/user-management/sis/synch を参照してください。
	XSL コンバータ	統合プロファイル XML ファイルを出力場所に配置する前に、XSL と処理する XSL コンバータを選択します。コンバータの管理を選択し、コンバータを表示および編集します。詳細については、 統合 XSL コンバータ を参照してください。
	サンプルファイルを作成 (既存のプロファイルを編集するときに利用可能)	既存のユーザーを選択し、サンプルファイルを作成を選択して、既存のユーザーから新しいユーザー XML ファイルを作成します。これにより、ユーザー XML ファイルの構成方法をプレビューできます。 <hr/> Note また、 https://developers.exlibrisgroup.com/alma/apis/xsd/external_sys_user.xsd のサンプル XML ファイルを表示することができます。XML 属性では大文字と小文字が区別されることに注意してください。 <hr/>
同期 既存の Alma ユーザーの継続的な同期に使用されます。一致するレコードが見つかった場合、Alma は情報を統合しようとします。ユーザー登録フォームの必須フィールドは、このジョブで新しいユーザーアカウントを作成するときにも適用されますが、既存のアカウントを更新するときには適用されないことに注意してください。- ユーザーサービスの管理 を参照してください。	有効	ジョブがアクティブかどうか。ジョブがアクティブな場合、選択したスケジュールオプションに従ってジョブが実行されます。非アクティブの場合、実行されません。 このジョブは、<integration profile name>を使用したユーザー SYNCHRONIZE と呼ばれます。
	レコードタイプ	Alma で作成するユーザーレコードのタイプ：コンタクト、パブリック、またはスタッフ。 各 SIS プロファイルは、1 つのタイプのユーザー（スタッフまたは公開）をロードします。別のユーザータイプを処理するには、別の SIS プロファイルを定義する必要があります。教育機関の単一の SIS に複数のタイプのユーザーがいる場合は、プロファイルのレコードタイプを公開として定義することをお勧めします。これは、すべてのユーザーが公開ユーザーとして Alma で作成されることを意味します。その後、ユーザー役職を使用して、ユーザーとスタッフを区別できます。 レコードタイプの選択の詳細については、 https://

セクション	フィールド	説明
		developers.exlibrisgroup.com/alma/integrations/user-management/sis/synch を参照してください。
	IDタイプの照合	既存のAlmaユーザーと照合する識別子として使用する、Almaで事前定義された一意の識別子タイプ。IDの照合の詳細については、 https://developers.exlibrisgroup.com/alma/integrations/user-management/sis/synch を参照してください。
	同期タイプ	すべてを交換、これは、既存のすべてのユーザーレコードが、一致する着信ユーザーレコードに置き換えられることを意味します。同期ワークフローの詳細については、 https://developers.exlibrisgroup.com/alma/integrations/user-management/sis/synch を参照してください。
	一致しないレコード	一致するレコードが見つからなかった場合にAlmaが新しいユーザーレコードを追加するか、または一致するレコードが見つからなかった場合に着信レコードを拒否するか。デフォルトでは、レコードが追加されます。
	入力ファイルパス	セキュアFTP接続の作成時に指定されたパスのサブディレクトリ（必須）。たとえば、セキュアFTP接続設定中にサブディレクトリフィールドにAlmaを指定し（このフィールドの値を指定することが必須であることに注意してください）、入力ファイルパスフィールドに SIS_import と入力した場合、SISファイルは Alma/SIS_import ディレクトリ（ルートFTPディレクトリの下）にインポートされます。
	スケジュール	未スケジュールを選択した場合、ジョブは、手動で実行した場合にのみ実行されます。詳細については、以下の SIS情報の手動インポート/エクスポート および SIS情報の手動同期 のセクションを参照してください。 利用可能なスケジュールリングオプションは、データセンターによって異なります。
	ユーザーXSD版	バージョン1または2。バージョン2を使用する必要があることに注意してください。これらのバージョンの詳細については、 https://developers.exlibrisgroup.com/alma/integrations/user-management/sis/synch を参照してください。
	XSLコンバータ	統合プロファイルXMLファイルを出力場所に配置する前に、XSLと処理するXSLコンバーターを選択します。コンバーターの管理を選択し、コンバーターを表示および編集します。詳細については、 統合XSLコンバーター を参照してください。
	以下に使用される統合プロファイル（Esploroのみ）	Esploroが機関で有効になっている場合にのみ表示されます。 以下のうちの一つを選択してください： <ul style="list-style-type: none"> ◦ ユーザーと研究者-ファイルにユーザーと研究者の両方の情報を含める場合。 ◦ ユーザーのみ-ファイルにユーザー情報のみ（研究者フィールドなし）を含める場合。 ◦ 研究者のみ-ユーザーの研究者情報のみを追加または更新する場合。各ユーザーは既存のAlmaユーザーのプライマリ識別子を含める必要があり、ファイルに含まれる他のユーザー情報はローダーによって追加またはアップデートされないこと

セクション	フィールド	説明
		<p>に注意してください。研究者 識別子を 研究者のみのオプションの一部として読み込みます。詳細については、[研究者の追加]を参照してください。</p> <p>同期はすべてスワップ モードで実行されます。つまり、既存のすべての情報が置き換えられます。入力ファイルにフィールドが存在しない場合は、既存のユーザーまたは研究者から削除されます。したがって、入力ファイルには、更新されたフィールドだけでなく、ユーザー または研究者のすべての外部情報が 常に含まれている必要があります。</p>
<p>条件によってユーザーをエクスポート (未払いの罰金によってブロックされるべきユーザーをエクスポートするために使用されます)</p> <p>エクスポートされるユーザーには、閾値を超える罰金を持つユーザー、および、設定されたブロックタイプまたは設定されていない場合はすべてのブロックに基づき、ブロックがあるユーザーが含まれます。ユーザーの罰金が閾値ORを超えている場合、またはユーザーにブロックがある場合、ユーザーはエクスポートされます。</p>	<p>ユーザーへの研究者フィールドの選択 (Esploroのみ)</p>	<p>Esploroが機関で有効になっている場合にのみ表示されます。</p> <p>以下のうちの一つを選択してください:</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての研究者フィールド 選択した研究者フィールド-これを選択すると、表示されるクイックピックリストから更新する1つ以上のフィールドを選択します。
	<p>アクティブ</p>	<p>ジョブがアクティブかどうか。ジョブがアクティブである場合、選択したスケジュールオプションに従って実行されます。非アクティブの場合、実行されません。</p> <p>このジョブは、<integration profile name>を使用したユーザー EXPORTと呼ばれます。</p>
	<p>ユーザーIDタイプ</p>	<p>上記のIDタイプの照合の説明を参照してください。</p>
	<p>ユーザーグループ</p>	<p>エクスポートするユーザーが属するユーザーグループ。値が指定されていない場合、構成されたユーザーグループのいずれかに属するユーザーがエクスポートされます。</p>
	<p>ブロックタイプ</p>	<p>関連するユーザーをエクスポートする、過去に定義されたブロックタイプ (ブロック選好の設定を参照)。値が指定されていない場合、設定されたブロックタイプのいずれかに一致するユーザーがエクスポートされます。</p>
	<p>罰金/手数料年齢 (日数)</p>	<p>罰金/手数料の日数が指定された日数よりも古い (選択したグループおよび選択したブロックタイプの) ユーザーがエクスポートされます。デフォルトでは、この数は0です。</p>
	<p>閾値金額</p>	<p>罰金/手数料が指定された閾値を超える (選択したグループおよび選択したブロックタイプの) ユーザーがエクスポートされます。デフォルトでは、閾値は0です。</p>
	<p>アクティブな貸出の存在するユーザー</p>	<p>アクティブな貸出を持つユーザーのみを含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p>
<p>アクティブな貸出タイプ</p>	<p>アクティブな貸出を持つユーザーを選択すると、このフィールドが表示されます。貸出タイプが選択した貸出タイプと一致する場合、アクティブな貸出のあるユーザーがエクスポートに含まれます。</p>	

セクション	フィールド	説明
	出力ファイルパス	S/FTP接続の作成時に指定されたパスのサブディレクトリ。たとえば、S/FTP接続設定中にサブディレクトリフィールドにAlmaと指定し、出力ファイルパスにSIS_expoortと入力すると、このSISファイルはAlma/SIS_exportディレクトリ（ルートFTPディレクトリの下）にエクスポートされます。
	スケジュール	<p>未スケジュールを選択した場合、ジョブは、手動で実行した場合にのみ実行されます。詳細については、以下のSIS情報の手動インポート/エクスポートおよびSIS情報の手動同期のセクションを参照してください。</p> <p>利用可能なスケジュールリングオプションは、データセンターによって異なります。</p>
<p>ユーザーのエクスポート （古い、アクティブでない、または削除されたユーザー、または最近更新/作成されたユーザーをエクスポートするために使用されます。継続的なユーザーの完全なエクスポートには使用されません）</p>	アクティブ	<p>ジョブがアクティブかどうか。ジョブがアクティブである場合、選択したスケジュールオプションに従って実行されます。非アクティブの場合、実行されません。</p> <p>このジョブは、<integration profile name>を使用したユーザーEXPORT_USERSと呼ばれます。</p>
	ユーザーグループ	1つ以上のユーザーグループを選択して、エクスポートの対象となるユーザーレコードを識別します。
	作成からの日数	<p>エクスポートにユーザーレコードを含めるタイミングを識別する条件を日数で設定します。このパラメータは、ユーザーレコードがAlmaで作成されてからの日数を示します。この基準を満たすユーザーレコードをエクスポートするには、エクスポートするユーザーレコードが、ユーザーグループパラメータで選択されたユーザーグループの1つのメンバーである必要もあります。</p> <p>たとえば、ここで10を指定すると、過去10日間に作成されたユーザーレコードがエクスポートに含まれます。</p>
	更新からの日数	エクスポートにユーザーレコードを含めるタイミングを識別する条件を日数で設定します。このパラメータは、ユーザーレコードがAlmaで更新されてからの日数を示します（作成からの日数の例を参照）。この基準を満たすユーザーレコードをエクスポートするには、エクスポートするユーザーレコードが、ユーザーグループパラメータで選択されたユーザーグループの1つのメンバーである必要もあります。
	削除からの日数	エクスポートにユーザーレコードを含めるタイミングを識別する条件を日数で設定します。このパラメータは、ユーザーレコードがAlmaで削除されてからの日数を示します（作成からの日数の例を参照）。この基準を満たすユーザーレコードをエクスポートするには、エクスポートするユーザーレコードが、ユーザーグループパラメータで選択されたユーザーグループの1つのメンバーである必要もあります。
	出力ファイルパス	セキュアFTP接続の作成時に指定されたパスのサブディレクトリ。たとえば、セキュアFTP接続の設定中にサブディレクトリフィールドでAlmaを指定し、出力ファイルパスフィールドにSIS_Exportと入力すると、ファイルはAlma/SIS_Exportディレクトリ（ルートFTPディレクトリの下）にエクスポートされます。
	スケジュール	未スケジュールを選択した場合、ジョブは、手動で実行した場合にのみ実行されます。詳細については、以下の SIS情報の手動イ

セクション	フィールド	説明
		ンポート/エクスポート および SIS情報の手動同期 のセクションを参照してください。 利用可能なスケジューリングオプションは、データセンターによって異なります。
	ユーザー XSD版	バージョン1または2。バージョン2を使用する必要があることに注意してください。これらのバージョンの詳細については、 https://developers.exlibrisgroup.com/alma/integrations/user-management/sis/synch を参照してください。
オンラインインポート（学生管理システムからユーザーをインポートするために使用されます） <hr/> Note 使用されていません！	有効	機能がアクティブかどうか。機能がアクティブな場合、プロセスは学生管理システムにアクセスして、ユーザーの情報があればそれを取ります。機能がアクティブでない場合、プロセスは実行されません。デフォルトは非アクティブです。
	基本URL	ユーザーの 変更 に関するAPIコールの送信先であるホスト/ポート。オンラインインポートアクションがアクティブの場合は必須です。これは デベロッパーネットワーク に説明されている形式でユーザー情報を持っているREST APIである必要があることに注意してください。
	ユーザー名	HTTP基本認証資格情報のユーザー名。任意。空欄のままにすると、要求は資格情報なしで送信されます。
	パスワード	HTTP基本認証資格情報のパスワード。任意。空欄のままにすると、要求は資格情報なしで送信されます。

- [保存]を選択します。プロファイルが保存されます。
- プロファイルを編集するとき、[連絡先情報](#)タブが表示されます。このタブに入力された連絡先情報は情報提供のみを目的としています（[「ユーザーの連絡先情報の追加」](#)を参照）。スケジュールされたジョブの実行後に送信されるメール通知を受信するようにユーザーを設定することもできます。Almaユーザーや手動で入力したEメールアドレスに送信される通知を設定できます。詳細については、[スケジュール済みジョブのメール通知の設定](#)を参照してください。

Note

作成した統合プロファイルに基づいてユーザーのエクスポートジョブが実行されると、エクスポートプロセスにより、インポートアクションと同期アクションで使用されるフォーマットでXMLファイルが作成されます（保存した統合プロファイルのアクションタブのアクションセクションで定義されている、インポートセクションと同期セクションを参照）。XSLファイルを使用して、フォーマットを変更できます。XSLファイルは、[レターのカスタマイズ]で使用およびカスタマイズできます（[Almaレターの設定](#)を参照）。

SIS情報の手動インポート/エクスポート

SISインポート/エクスポートを手動で実行および監視するには：

プロファイルを編集する際、アクションタブのインポート/エクスポートセクションで、アクティブラジオボタンが選択されていることを確認し、実行を選択します。

ジョブは、Almaがそれを受け入れることができるとすぐに実行されます。インポートされたファイルは、再度実行されないようにマークされます。AlmaでEメール通知が有効になっている場合、インポートのEメール通知を受信し、Almaは通

知をエクスポートのSISに送信します。

ジョブのステータス、処理されたファイルの数、およびその他のデータを表示するには、統合プロファイルリストページで、適切なユーザー・プロファイルの行のアクションリストでジョブ履歴を選択します。

Note

ステータス正常に完了は、すべてのファイルが正常にインポートまたはエクスポートされたことを意味するものではありません。そうではなく、単にジョブがエラーなしで完了したということの意味します。

プライマリ識別子が既存のユーザーの一人のプライマリ識別子と一致するユーザーをインポートする場合は、識別子に基づきユーザーを拒否イベントが生成されます。

ユーザー同期では、Almaは5%の失敗率でのみアラートを出します。拒否されたユーザーの数が処理されたユーザーの総数の5%未満の場合、ジョブは「正常に完了しました」としてマークされます。

SIS情報の手動同期

SIS同期を手動で実行および監視するには：

プロファイルを編集するには、アクションタブの同期セクションで、実行を選択します。

同期ジョブは、Almaがそれを受け入れることができるとすぐに実行されます。同期されたファイルは、再度実行されないようにマークされます。AlmaでEメール通知を有効にしている場合、Eメールで通知を受け取ります。

ジョブのステータス、処理されたファイルの数、およびその他のデータを表示するには、統合プロファイルリストページで、適切なユーザー・プロファイルの行のアクションリストでジョブ履歴を選択します。

Note

ステータス正常に完了は、すべてのファイルが正常に同期されたことを意味するものではありません。そうではなく、単にジョブがエラーなしで完了したということの意味します。

同期のためにAlmaにインポートするファイルが複数ある場合、ファイルはzipファイルに保存されている順序で読み取られます。ユーザーがファイルに複数回表示された場合、ユーザーの最初のインスタンスが処理されます。ユーザーの残りの重複レコードはすべてエラーになります。

同期プロセスの詳細については、<https://developers.exlibrisgroup.com/alma/integrations/user-management/sis/synch>を参照してください。